

福井県すすめる会が父母・生徒・卒業生・教職員の4者で交流会を開きました。初参加の父母や生徒もいて、すすめる会の広がりを感じられる会になったとのこと。今年10月の父母懇全国交流集会(福井開催)に向けて、ていねいに時間をかけて、一歩ずつ組織をつくっています。6月8日~9日には宮城・松島にて東北父母懇交流集会も開催されています。

福井県私学の公費助成をすすめる会

すすめる会NEWS

Issue No. 10 | 2024. 6月号 | 第一回すすめる会交流会

すすめる会で交流会をしました！



6月10日、すすめる会主催により、父母・教職員・生徒・卒業生の4者で、交流会をしました。父母3人、教職員4人、生徒4人、卒業生2人の13人が集まりました。2月の北陸私研ぶりにみんなで集まりました。今回、父母や生徒の中には初参加の方もおり、すすめる会の広がりを感じられる交流会になりました。

予定していた3時間では時間が足りず、1時間延長して感想交流をしました。

生徒の発表タイム

交流会では、仁愛の生徒たちが父母に自分たちの活動を知ってほしいということで、生徒の活動報告が行われました。塩谷さんからは昨年の仁愛の学校祭のテーマである「学びのある学校祭」を引き継ぎ、今年は「つながりのある学校祭」をつくっていくためにどう動いていくのかについて話してくれました。

今さんからは生徒会執行部を支える広報誌の取り組みを報告してくれました。どのような工夫をしたら自分たちの思いや活動の意義が伝わるのかと、代議委員だけではなく執行部と何度も会議を重ねたうえで広報紙がつくられていることが分かりました。

青山さんの報告はこれまでの仁愛自主活動の取り組みでした。自主活動で学んだことの一つとして「父母共同の大切さ」をあげ、「親が子に、子が親に申し訳ないと思うくらいなら一緒に活動してほしい」と訴えかけました。そして、私学助成の問題が社会構造の問題であることを捉え、「社会に目を向けていくために父母との共同があるのではないか」という言葉に誰もが胸を打たれている様子でした。また、他校の生徒も一人参加し、仁愛との交流で自身の学校におきた変化を報告してくれました。



感想交流では、「生徒の皆さんの活動を支えたい」や「現役父母が頑張らなくちゃ」と拍手が起こりました。また、生徒会の活動のなかなかうまくいかない場面について、父母からの意見として「ワクワクをみんなで伝えていくことが大事なのではないか」とこれからの生徒会活動を生徒・教員だけでなく、父母も加わって考える状況も生まれました。福井では少しずつ父母・教職員・生徒・卒業生で「ワクワク」を編んでいます。そして今年の全国父母懇で、青山さんが奥出さんとの共同レポートを、塩谷さんが共同運営者を引き受けてくださいました。また、瀬戸さんが全国父母懇実行委員メンバーに参加してくれることになりました！この間の生徒自主活動から父母共同への波が少しずつ大きくなっています。今後もこの「ワクワク」する会を開いていけたらと思います。